

330

□ 三代目 鳥洞屋 里笛

後 里桂

寛政二年一月市村座に里夕の上調子。寛政八年春都座にて
初代里桂加里正氏となりや。三吾里桂となり(常)寛政十年二月二日
里長里夕等と共に常盤若津を去り富本に転ず。

331

□ 岸澤 政治

寛政五年春河原崎座に三代目九藏(後三吾式佐)の上調子

332

□ 故澤 萬藏

後 鳥洞屋 萬藏

又 岸澤 萬藏

天明八年桐座に始り上調子。控に出づ。寛政四年五月河原崎座に
故澤里桂(後三代目里長)の上調子。後も里桂に從ひし小く出勤
寛政丁年里長富本(去りし時)常盤若津に残す。
天明八年十月中村座に始り出勤

333

□ 故澤 里十

後 鳥洞屋 里十

寛政三年正月中村座始り出勤。寛政五年中村座に岸澤萬藏
の上調子。寛政六年正月桐座に式佐の上調子となり

334

□ 岸澤 悦吉

寛政六年八月河原崎座に三代目式佐の上調子。寛政十二年河原崎
座出勤。芝居出勤方々。文化の年三月森田座に岸澤里夕の

上調子と勤りなり

335 回岸澤重五郎

寛政七年十月河原崎屋に岸澤九蔵のワキ

寛政八年河原崎屋番附の旦中、同年四月河原崎屋に始り、
味線格となり

336 岸澤市治郎

後市五郎、治三右右和佐

初めその名の是なり、寛政十年五月中村屋に二世吉武郎の上調子を
勤りに始まり文化三年市五郎と改め、味線格となり、
十一月三日岸澤右和佐となる

337 三代岸澤右和佐

その名の始り、是より文化五年四月市村屋に二世吉武郎の上調子を勤り、
治は世居を勤り、文化六年十一月三右吉武郎政可の五七年には
仲助、秘藏等と共に、味線となり、文政八年十一月三右和佐を勤り、
文政末年まで、世居を勤り

338 回岸澤市三郎

寛政十年、五月中村屋に二世吉武郎の上調子、その後、上調子格となり、
あり、文化八年八月、城屋に四代目、文字大夫のラテ、味線を勤り、
寛政七年八月、市村屋に九蔵のワキ

339

口岸澤兼八

鳥洞屋里曉

寛政九年正月都座に里ノの上調子 同年八月河原崎屋に里多のり中
寛政十年二月赤里長里夕里桂等富本に転せしむ後継うと古式部
の弟子となり同年五月中村座に口岸澤兼八となり 同年十月村座
に三五古式部の上調子

340

口花房東寿

寛政十年四月中村座に吾妻國大夫の夕三味線

341

口三谷山岸澤市治郎

文化五年六月市村座に始り上調子格(常)

342

口花房正治郎

享和三年十二月河原崎屋に吾妻國大夫の夕

343

口府門松五郎

享和三年二月河原崎屋に國大夫の夕 正治郎と共につとむ